



令和5年7月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

毎朝、年長児が二人一組で当番活動を行います。登園人数報告の他、ちょっとした片付けや簡単な伝達等、内容は多岐にわたります。子育て支援で来園した親子をご案内なんて日もありました。必ずやってもらう仕事の一つに、職員が試飲するお茶や牛乳を運ぶというのがあります。ある日、当番の子がいつものように調理室から試飲のカップを載せたトレイを運んでいると、3歳児が「なに運んでいるの」と声をかけました。その時、当番の子が返した言葉は「今、お茶運んでいるから声かけないで」でした。トレイに向けた視線からは“こぼさないで事務所まで運ぶんだ”という思いがハッキリと伝わってきました。たとえ年長児であっても、当番活動を最後まで集中して出来る日ばかりではなく、他の事に気を取られたり、話をしているも体があちこち動いてしまう姿も見られます。そんな状況の中で聞こえてきた使命感溢れる言葉に、子どもたちの内面では、保育士が目で見えて感じて捉えている以上の育ちがあることに気付かされました。“自分の力でこぼさないで運べる”という自立心、“今日は大事な当番の日”と張り切る気持ちと責任感、“誰かの役に立っている”と思える喜びや有能感、そのどれもが保育園生活で育みたい姿であり、子どもたちに感じてもらいたい日常の豊かさでもあります。

当番活動の様子を目にすることで年長児への憧れを抱くように、子どもたちはお兄さん・お姉さんの姿を通して大きくなることへの期待と喜びを膨らませていきます。保育園に行くことを心待ちにし、楽しさと心地良さで子どもたちを包み込めるような場所であり続けたいと思います。



プール開き（3・4・5歳児クラス）

水遊び開始（0・1・2歳児クラス）

中旬

身体計測・避難訓練

## 思わず「クスッ」としたり、感心させられたり…



### 3歳児クラス <さくら組>

給食のスパニッシュオムレツを食べていた時のことです。友達の口元にトマトソースがついているのを見た子が「ママみたいだね」と言いました。保育士が「ママの口にトマトソースがついているの」と聞くと「だってママお化粧するでしょ」という答えが返ってきました。赤くなった口元がお母さんの口紅と重なったようでした。憧れのお化粧を友達がしているように感じたのでしょう、不思議そうな表情で保育士に話していました。



### 4歳児クラス <すみれ組>

七夕の制作で“にじみ絵”をしました。マジックペンで描いた絵に霧吹きで水をかけると何色もの色が滲んで混ざり合い、模様になります。その模様を見て「わぁ きれい。宇宙みたいだね」と言う子がいました。「きれい」という言葉だけでなく宇宙に例えて表現するなんて、子どもの感性の豊かさに触れる思いがしました。



こねこね  
さらさら

## なにこれ、気持ちいいね。

～いろいろな感触～

ドロドロ  
びちゃびちゃ

### 0歳児クラス（つぼみ組）

児童遊園で砂に触れると“何だろう”という表情でジッと見つめています。保育士が目の前でサラサラと落としてみせると、砂の流れを目で追ってからそっと手を伸ばして触れています。初めのうちは慣れない感触に驚き、とっさに手を引く子もいましたが、児童遊園に行く度に保育士と砂遊びを楽しむことで、今では自ら砂場に向かうようになりました。「今日も砂で遊びたいよ」と言っているかのように保育士の顔を見て笑い、砂山を乗り越えたりして全身で感触を楽しんでいます。

初めて経験する一つひとつの場面を大切にしながら、楽しさや少し不安な気持ちにも寄り添い、安心して過ごせるように関わっていきます。



### 1歳児クラス（ちゅうりっぷ組）

まず始めに米粉に触れ、水を混ぜて米粉粘土を作る段階から楽しみました。子どもたちは粘土を叩くように触ったり、人差し指で押して弾力を確かめたりしていました。粘土をつまんで幾つも粒を作っている子に「いっぱい出来たね」「ダンゴムシみたいだね」と声をかけると「いっぱい いっぱい」「ダンゴムシ」と次々に粒を作ります。隣の子が真似て1cm程にちぎった粒を「でんでんむしはい」と渡すと、大きめの粘土の塊に何個もつけ、石や葉にくっついている様子を表現していました。

子どもたちは、でんでんむしがいっぱいになった楽しさを感じて笑い合っていました。

手から伝わる様々な感触の違いを感じながら想像力を巡らせ、保育士や友達と楽しめる活動にしていきます。



### 2歳児クラス（たんぽぽ組）

泥んこ遊びを通じて、水の中に少しずつ砂を入れると徐々に水が濁り、やがてドロドロになることに気付きました。「色がかわってきた」「冷たくてきもちいい」と言葉にしながらか友達や保育士と一緒に楽しみました。抵抗なく泥に向かう子もいれば、ドキドキしている子もいますが、泥んこの地面を歩くと泥が靴底にピタッと吸い付くような感覚が楽しくなってくると飛び跳ねたり手で触れてみたりしていました。

“どんな触り心地なんだろう”“触ったらどうなるのかな”と2歳児らしく感じるままに行動に移し、心が動く経験を積み重ねていきます。

